

# パレオパラドキシアの束歯の化石

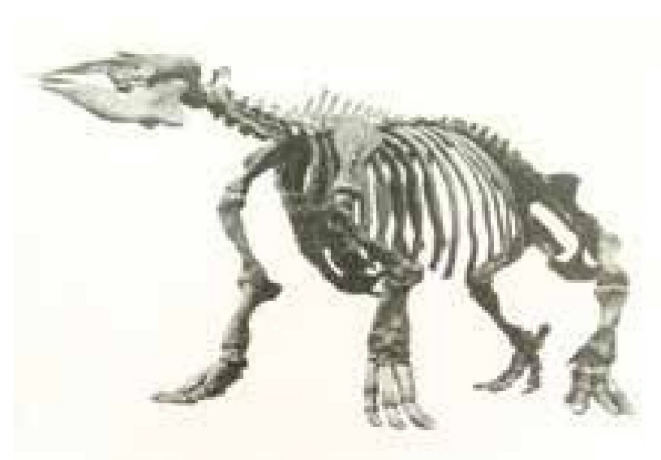
- ◇ 指定日 平成10年7月24日
- ◇ 所在地 茂市(新里生涯学習センター)
- ◇ 所有者 宮古市

パレオパラドキシアは今からおよそ1,500～1,300万年  
前の<sup>しんせいだいだいさんき</sup>新生代第三紀に生息していた<sup>かいせいほにゅうるい</sup>海生哺乳類の仲間です。

丸い束のような円柱状の歯が特徴とされ、この化石では  
下顎右側第3大臼歯<sup>だいきゅうし</sup>であると鑑定されています。

この臼歯<sup>わいはい</sup>の化石は、土蔵建築の際に和井内東遺跡内で発見されています。

周辺にパレオパラドキシアの化石が産出するような年代の地層が分布していないことや約2,500年前の縄文時代晩期の土器と一緒に見つかったことなどから、縄文時代の人<sup>ひと</sup>が他の場所で採取した化石を和井内地区に持ち込んだものと考えられています。



骨格標本  
(写真提供 新里生涯学習センター)